

文化の継承

その十九 海・漁村の文化



小学生漁村体験

日本海に面した鶴岡市には、十四の港があり、古くから水産業が活発に行われていて、現在では県内の漁獲量の約半分を占めます。漁業者の皆さん、四季折々に新鮮な海の幸を運んでくれ、豊かな食文化を支えてくれています。また漁村地域には、海を生かした地域ならではの活気ある行事も受け継がれており、海や漁村は鶴岡にとって大切な基盤であり、魅力の一つです。

今月は、鶴岡市文化財保護審議委員で鼠ヶ関地区の歴史に明るい五十嵐英夫さん、鼠ヶ関漁業青年会会長で漁業者の五十嵐安貴さん、山形県漁協女性部由良支部副部長の石塚礼子さん、(財)山形県水産振興協会業務部長の大井重和さん、そして小堅地区自治振興会会长の本間仁一さんの司会で鶴岡の海・漁村の文化について語っていただきました。

豊かな鶴岡の海

本間 鶴岡市の海岸線は、七窪から鼠ヶ関まで約六十五キロメートル、その中に南のほうから鼠ヶ関、早田など約二十の集落が点在し、そこで約一万二千人の人々が生活をしています。この地域では、古くから漁業が盛んに行われておりました。

いろいろ調べてみると、小波渡地区の沖にはよい天然礁もあり、かつては庄内浜漁業の先進地であったそうです。また、ある資料には小波渡の漁師が明治の初めころよりも十年ほど前、今から百五十年ほど前に、和船、いわゆる帆掛け舟で北海道に出稼ぎ漁業を行ったということを出ています。そして明治の末期

これまで無動力の和船であった漁船も、明治四十五年（大正元年）に加茂地区で初めて発動機船が導入され、大正末期まで徐々に各地に広まっていきました。昭和に入つてもしばらくは、解説参考動力船による底びき網漁業で漁獲量が急増した加茂港が漁業の中心であつたようです。

現在では、鶴岡市管内の漁獲量は県内の五〇%強を占め、中でも鼠ヶ関港は底びき船も多く、そのうち約半分の漁獲量を占めています。若い漁業者も数多く働いており、県内を代表する活気ある漁村の一つと言つてもいいだらうと思います。そのようなことから、まず最初に、五十嵐英夫さんから、鼠ヶ関地区の歴史を踏まえ、漁村の文化などについて教えていただこうと思

本間仁一氏(司会)

小塙地区自治振興会会长
堅苔沢自治会会长



大井重和氏

山形県水産振興協会業務部長



五十嵐英夫氏

鶴岡市文化財保護審議委員



五十嵐安貴氏

鼠ヶ関漁業青年会会長



石塚礼子氏

山形県漁協女性部由良支部副部長



五十嵐安貴氏

鼠ヶ関漁業青年会会長

います。

英夫 鶴岡市の南端、鼠ヶ関という所は、蝦夷の時代から考えると、出羽と越後の境として、中央政府との関わりからしても重要な関所が築かれるなど特殊な所であったと思います。

また、海と人々との関わりも深く、鼠ヶ関の弁天島には、海の守護神として昔から漁民に慕われてきた弁天様を祀る厳島神社があります。『弁財天縁起』という古文書には、弁天様がいかにすばらしいかということが書いてあるのですが、その昔、鼠ヶ関の人たちが一晩に同じ夢を見て、それで海に網を入れてみたら海の底から長さ五寸(約一五六)¹程度の弁財天が引き上げられ、それがご神体になつているということなどが記されています。毎年四月には厳島神社例大祭があり、豊漁と海の安全を祈願して、地域の若手による御輿流しが行われています。

それから、漁村の文化として忘れてはいけないのは、アバさん(魚の行商をする女性)のこと。アバさんが自分の名前の書かれている黒板状の小さい板に、符丁文字(合言葉)で値段を書いて競る方法は、このあたりでは鼠ヶ関と山北だけだそうだ。安貴 暗号みたいな感じですよ

安貴 私の高校時代、朝の始発の電車で通学する時は、何人か重い荷物を背負って鶴岡方面へ魚を売りに行くアバさんたちがいました。ただスーパーから自

然、競りの様子を見ているとすばらしい。そういうのも一つの文化ではないかと思います。漁村では女性も頑張ってくれる、例えば、荷揚げする、選別する、競りにかける、そして町まで売に行く、その力たるや本当に無視できないことだと思います。あのアバさんたちのサポートする力も特筆すべきことだと思うんです。

英夫 競りの様子を見ているとすばらしい。そういうのも一つの文化ではないかと思います。

ね。私が見ても全然分かりませんでした。由良ではまた違ったやり方をしていますよね。

石塚 「下げ競り」と言って、競

り人が競り棒で魚を指しながら値段を決めます。少しづつ値段を下げていき、「買う」と意思表示した人がいたらそこで決まりです。

ね。私が見ても全然分かりませんでした。由良ではまた違ったやり方をしていますよね。

思います。

大井 アバさんは浜と農村地帯を結ぶ、情報伝達人の役割もあつたのではないかなと思います。

「あの村に適齢の男の人や女の人がいる」なんて仲人のようなことも伝えていたようです。

思います。

四季折々に海の幸を届けるため

本間 安貴さんは鼠ヶ関で底びき網漁業をされていますが、鼠ヶ関は若い漁業者も多く頑張っています。現在の鼠ヶ関地区のことや鶴岡ではどんな漁業が行われているのか教えてください。

安貴 鶴岡では、底びき網漁業は一五ト未満と一〇ト未満の底びき船が主力です。あとは、

ごち網漁業、さし網漁業、それ



豊漁と海の安全を祈願し行われる鼠ヶ関厳島神社例大祭(神輿流し)



水揚げの様子



水揚げされた新鮮な魚

底びき網漁業…袋状の網を船の進行移動によって海の底をひき回して魚を獲る漁業。水深一〇〇～五〇〇メートルの所で操業し、カレイ、ヒラメ、タラ、アンコウ、甘エビ、ズワイガニ等を漁獲。

ごち網漁業…網と曳網（ロープ）で魚群を囲むように網を入れ、曳網を少しずつせばめて魚を網の中に追い込み獲る漁業。主に沿岸で操業し、マダイ等を漁獲。

さし網漁業…かすみ網のような網を、狙いとする水産動物の通り道に仕掛け、網に刺させたり、からめたりして獲る漁業。さし網漁業には色々な種類があるが、カレイ、ヒラメ、ワタリガニ、キス、アマダイ等を漁獲。

磯見漁業…水深一〇メートル以浅の磯漁場で、小船を操りながら、箱メガネで海底をのぞき、対象とする水産動物を探して獲る漁業。

定置網漁業…海岸近くの魚の通り道（魚道）に、長い垣網と身網（魚だまり）とでできている網を設置し、垣網で魚を身網に誘導して獲る漁業。サケ、サクラマス等を漁獲。

海の中層または海底に「」の漁具を繰り延べて獲る漁業。マダイ等を漁獲。

山形県漁協ホームページから一部引用

九月から六月までの間が漁期で（底びき網漁業は七・八月は休漁期間）、時期によって出漁の日数、時間などは違いますが、九月～十月ですと早ければ午後九時ころ出港します。鼠ヶ関や由良は夕方に競りをする「夕競り」のため、それに間に合うように入港し、家に帰るのは午後六時半とか七時ぐらい、そしてまた九時で出港します。

冬の寒鰐の時期ですと、だいたい午前三時半に支度して四時に出港という決まりを作りました。時化れば（天候が悪くなれば）すぐに帰ってきますが、漁を終えて帰ってくるのは夕方の五時か六時にはなります。寒鰐の時期はすべての船がよい漁場に行けるように配慮しています。そうでないと、よい漁場に早く行つた船はたくさん獲れますし、遅い船は獲れません。獲れる場所が皆に回るよう、「輪番」というかたちを作り、そうすれば漁場を選択するために早く出港することもなく、操業するまでの燃料の消費も抑えられます。

また、春の時期ですと、だいたい午後十一時から午前一時く

から細かく言えれば、磯見漁業、イカ釣り漁業などいろいろあります、鶴岡では底びき網漁業がメインとなっています。

九月から六月までの間が漁期

で（底びき網漁業は七・八月は休漁期間）、時期によって出漁の日数、時間などは違いますが、九月～十月ですと早ければ午後九時ころ出港します。鼠ヶ関や由良は夕方に競りをする「夕競り」のため、それに間に合うように入港し、家に帰るのは午後六時半とか七時ぐらい、そしてまた九時で出港します。

冬の寒鰐の時期ですと、だいたい午前三時半に支度して四時に出港という決まりを作りました。時化れば（天候が悪くなれば）すぐに帰ってきますが、漁を終えて帰てくるのは夕方の五時か六時にはなります。寒鰐の時期はすべての船がよい漁場に行けるように配慮しています。そうでないと、よい漁場に早く行つた船はたくさん獲れますし、遅い船は獲れません。獲れる場所が皆に回るよう、「輪番」というかたちを作り、そうすれば漁場を選択するために早く出港することもなく、操業するまでの燃料の消費も抑えられます。

また、春の時期ですと、だいたい午後十一時から午前一時く

らいまでの間に出港し、帰つくるのは夕方となります。そしてまた次の日が漁であれば休む間もなく次の日の準備をします。

底びきで獲れる魚の種類は、

秋はほとんどスケソウダラと甘エビ、そしてハタハタですが、甘エビは一年をとおして獲れます。十月にはカニ漁が解禁になりますので、四月までの間に力二を狙う船もあります。冬は寒鰐やアンコウ。春になりますとホッケ、産卵を終えたハタハタ、口細カレイなど。またサクラマスは定置網漁業で、マダイは主に、はえなわ漁業で獲ります。

夏には、アワビやイワガキ、スルメイカなどが水揚げされます。

解説参考

頼もしい漁業者

本間 現在、県内の漁業者数は、漁協の正組合員、準組合員を合わせて千五百人くらいです。

漁業者は、ほかの職業の方々よりも絆（きずな）が強いように思っています。というのは、時には操業事故がないようにお互いに情報交換しながら、助け合って仕事をしていく、日（ひ）の結びつきに荒天にも遭う職業だから、

安賀 同じ仕事ですし、ライバ

ら今までの間に出港し、帰つくるのは夕方となります。そしてまた次の日が漁であれば休む間もなく次の日の準備をします。

底びきで獲れる魚の種類は、秋はほとんどスケソウダラと甘エビ、そしてハタハタですが、甘エビは一年をとおして獲れます。十月にはカニ漁が解禁になりますので、四月までの間に力二を狙う船もあります。冬は寒鰐やアンコウ。春になりますとホッケ、産卵を終えたハタハタ、口細カレイなど。またサクラマスは定置網漁業で、マダイは主に、はえなわ漁業で獲ります。

解説参考

夏には、アワビやイワガキ、スルメイカなどが水揚げされます。

夏には、アワビやイワガキ、スルメイカなどが水揚げされます。

解説参考

本間 若い人がいなければ、後についていく若い人がまた行きにくるなるだろうし、足も遠くなるよ。その点、鼠ヶ関は幸せだと思わなければ。

大井 そういう若い後継者がいるといふことは、年配の現役漁師にとつても技術を伝えていく励みになるからね。

本間 石塚さんの家は船主で底びき網漁業をやっているようですが、奥さんから見た漁家の仕事を教えてください。

石塚 夫の船が入港するとそれ

ルでもあり、仲間でもあると思

います。お互に負けたくないという気持ちがあつて、切磋琢磨しながら全体が発展してきていると思います。

山形県全体を見て、ほかの地域に比べますと鶴岡は若い漁業者が増えていると思います。そして鼠ヶ関の底びき網漁業に関しては、従業員が船頭も含めて四十六人いますが、そのうち三十人は漁業青年会のメンバーです。また、今年も九月から二十歳の人が一人、船に乗るという話も聞いています。

本間 若い人が多くて頼もしい地域ですよ。

解説参考



「小学生漁村体験」の様子
漁業体験で魚のさばき方を習う
「魚の森づくり」の活動
(福井小学校)
クロダイの稚魚の放流
(油戸地区)
(由良小学校)

石塚 最初は、朝早く漁に送り出すとき「こんな寒い日に大丈夫なのかな?」って本当に心配でした。また、魚の選別も最初は魚の種類が分からず、皆さんにたくさん教えてもらいました。

本間 仕事を楽しいですか。

石塚 楽しいです。私は漁業も魚も大好きです。

本間 それは何よりだ。それから由良漁協女性部の副部長をされているそうですが、どんな活動を行っているんですか。

石塚 由良漁協女性部では、「海をきれいにしよう」ということで、無公害石鹼などを地域の一軒一軒を回って販売したり、また魚食普及のため魚の販売も行っています。規模は小さいですが直売もしていて、カレイなどのから揚げを毎回提供したりしています。先日も「楽しみにして来ました」なんて言つお客様もいて、魚食普及のためやつてきてほんとによかったなと思いました。それから、漁

石塚 最初は、朝早く漁に送り出すとき「こんな寒い日に大丈夫なのかな?」って本当に心配でした。また、魚の選別も最初は魚の種類が分からず、皆さんにたくさん教えてもらいました。

本間 仕事を楽しいですか。

石塚 楽しいです。私は漁業も魚も大好きです。

本間 それは何よりだ。それから由良漁協女性部の副部長をされているそうですが、どんな活動を行っているんですか。

石塚 由良漁協女性部では、「海をきれいにしよう」ということで、無公害石鹼などを地域の一軒一軒を回って販売したり、また魚食普及のため魚の販売も行っています。規模は小さいですが直売もしていて、カレイなどのから揚げを毎回提供したりしています。先日も「楽しみにして来ました」なんて言つお客様もいて、魚食普及のためやつてきてほんとによかったなと思いました。それから、漁

本間 櫛引から嫁がれたと伺っていますが、漁師の仕事というのはほかの地域で育つた方には戸惑いや意外なこともあります。

本間 櫛引から嫁がれたと伺っていますが、漁師の仕事というのはほかの地域で育つた方には戸惑いや意外なこともあつたでしょうね。

大井 海岸がきれいにしてあると、観光客の人にもイメージがいいですよね。

大井 海岸がきれいにしてあると、観光客の人にもイメージがいいですよね。

海の資源を守るために

本間 いのうつに漁業関係者が頑張つていて一方で、残念ながら漁獲量が少なくなったり、単価が安くなったりという現状もあります。それに対して水産資源を増やし、そして漁業者の収入を増やすと栽培漁業センターが動いているわけです。大井さん、栽培漁業の果たす役割などを教えてください。

大井 私は鶴岡市三瀬にある山形県栽培漁業センターを運営する水産振興協会に勤めています。センターは、昭和五十七年に開設されました。

当時、なぜ日本で栽培漁業の取り組みが出てきたかという背景を申しますと、日本の漁業は沿岸から沖合い、沖合いから遠洋へと発展していったのですが、一百海里経済水域による制限が出てから、逆に国内に帰つて来るのを見たのです。そこで、地域によっては資源の枯渇が大きな問題でした。それでとにかく重要な魚介類は卵から育てて放流して、漁業を守っているので、それに応じた魚種の放流をしています。

栽培漁業というのは、簡単に言えば「作り育てて獲る漁業」。人間の手で種となる種苗を作り、それを放流して自然界の生産力を利用して大きくし、そして漁業者に獲つてもらいます。現在うちのセンターで生産している魚種は、ヒラメ、アユ、そしてクロダイ、それからモクズガニなどです。それと一番歴史の深いアワビ。私たちの仕事は、漁師の皆さんに「ああ、放してもらつて獲れた、いがつたや」と言つてもらえるのがやっぱり一番のやりがいです。これが栽培漁業の役割ではないでしょうか。

また、昨今、世界規模で環境汚染が問題になっていますが、「海と川はつながっているんだよ」という意識を見学に来る子供たちに伝えていくんです。センターの年間見学者は千人ほどいますが、その三分の二が子供たちです。例えば、普通アユといえ

佐藤一貴さん

職場体験で漁業を選んだきっかけは、海や魚がとても好きなのでこの職場が合っていると思ったからです。今日は、天気が悪く予定していた仕事ができませんでしたが、実際に船で海上に出て、船の操作やレーダーの見方を教わったり、たくさんの種類の魚の選別をしたりといろいろな経験ができました。たくさんの魚を選別し、冷凍して出荷するのはすごいなと思いました。



漁業体験に参加した温海中学校の生徒5人



五十嵐大貴さん

ぼくは、海や川が好きで

漁船や漁業の仕事に興味があつたので参加しました。

漁業は力が必要な仕事で

重い網を引っ張ったり、箱

詰めされた重い魚をすばや

く運んだりしている姿がす

ごいなと感じました。自分

でも初めての体験が多くつ

たので分かるまでしつかり

私はおじいさんも漁師をしていました。大変そだな

と思うこともありましたが、

楽しそうだとも思いました。

黒崎沢には天竜川という小さい川が集落内を流れていますが、

赤川は天竜川

の支流で、庄内浜、鶴岡の海はだれ

が見てもきれいで、その海で獲

った魚はきっとおいしいだろ

う」というイメージをもつても

うらつたためにも、鶴岡の川や海の

環境を守ることは非常に大切だ

るうと思います。

本間 今、大井さんからお話を

あつた「作り育てる漁業」に若

干関連があるのかなと思いお話を

させてもらいましたけど、堅苔沢

では今年の秋から「魚の森づくり」という事業を始めます。これは油戸地区で十年ほど前から行っている事業です。

安貴

やはり魚は骨があるもん

最近新聞で見たのですが、給

食などで子供たちに骨を抜いた

魚を食べさせる所もあるそう

ででしょうね。

本間 子供たちにも自分の生ま

れた地域に関心を持つていろん

な体験をして、大人になつても

ふるさとの海を誇りに思つても

らうたいですね。

安貴

鼠ヶ関でも小学生を船に

乗せて、底びき網漁はこうじう

ふうにやつてているんだって見せ

ています。そして獲れた魚を選

別させて、さばき方を教えて実

習して食べます。そういう体験

授業つていうのは学校の中では

できないですし、子供たちも喜

んでやつてているようです。

本間 中学生を対象に職場体験

もしたそうで、よい経験になる

でしおうね。

本間 鶴岡の豊かな食文化、例

えば口細力レイやサクラマス、

寒鱈など有名なおいしい魚がい

っぱりあります。鶴岡の子供た

ちには、地元の新鮮な魚をいつ

ぱい食べて、この食文化も引き

継いでほしいです。

大井 ちょっと飛躍するかもし

れないけど、魚でも何でも粗末

にするど、これからなくなる時

代がくるかもしませんよね。

本間 鶴岡の豊かな食文化、例

えば口細力レイやサクラマス、

寒鱈など有名なおいしい魚がい

っぱりあります。鶴岡の子供た

ちには、地元の新鮮な魚をいつ

ぱい食べて、この食文化も引き

継いでほしいです。

大井 ちょっと飛躍するかもし

れないけど、魚でも何でも粗末

にするど、これからなくなる時

代がくるかもしませんよね。

本間 漁業者のが一生懸命に働い

て漁獲してきた魚ですから、お

いしく食べてもらいたいとい

うのが本音だとと思うんですよ。

馬鹿にしないで丁寧においしく食

べてもらえれば、それが一番の

喜びであると思います。

また、今年の九月から「海の

産直カーラー」が動き出すとい

う話を聞きました。これまで「森

の産直カーラー」で山村の農産物の

販売はやっていて、私も利用し

- 職場体験(漁業)に参加して -

職場体験で漁業を選んだきっかけは、海や魚がとても好きなのでこの職場が合っていると思ったからです。

今日は、天気が悪く予定していた仕事ができませんでしたが、実際に船で海上に出て、船の操作やレーダー

の見方を教わったり、たくさんの種類の魚の選別をし

たりといろいろな経験ができました。たくさんの魚を

選別し、冷凍して出荷する

のはすごいなと思いました。

新鮮な魚介類をいつでも食べられる漁師の仕事は魅力があると思います。

は「川の魚でしょ?」という答えが返ってくるんですけども、「いやいやちょっと待てよ」と。

「アコも一生のうち、ちゃんと海で暮らす時もあるんだよ」と教えるんです。結局何を言いたいかというと、海と川はつながつていて、海の魚も小さい時は浅いところにいます。川を汚せば海の魚まで影響を受けるんだと言つと子供たちは分かつてくれます。せっかく種苗を天然水域に委ねても、水域そのものが汚れていれば何にもならない話ですからね。

鶴岡は赤川のような大きな川もあり、海もあるよいところであります。「庄内浜、鶴岡の海はだれが見てもきれいで、その海で獲つた魚はきっとおいしいだろ

う」というイメージをもつてもうらつたためにも、鶴岡の川や海の環境を守ることは非常に大切だ

らうと思います。

石塚 魚は骨があるのが当然、ないのが不思議だつて思わないと思りますよね。

学校給食に地元の魚をどちらも参加してもらい、漁業者や保育園児や小学生が教えるんです。大変な年数のかかる事業かもしませんが、いくらかでも庄内浜が豊かになるようにと願っています。

子供たちにも誇れる食文化を

本間 鶴岡の豊かな食文化、例えれば口細力レイやサクラマス、寒鱈など有名なおいしい魚がいっぱいあります。鶴岡の子供たちには、地元の新鮮な魚をいっぱい食べて、この食文化も引き継いでほしいです。

本間 鶴岡の豊かな食文化、例えれば口細力レイやサクラマス、寒鱈など有名なおいしい魚がいっぱいあります。鶴岡の子供たちには、地元の新鮮な魚をいっぱい食べて、この食文化も引き継いでほしいです。

安貴 学校給食に地元の魚をどう取り入れるべきだと私は言つてきましたが、小学校で鼠ヶ関の魚を使うと聞きうれしく思いました。

だと、骨をとりながら食べさせることもやってもらいたいなど思います。



鼠ヶ関大漁旗フェスティバル



由良イワカミまつり



堅苔沢「海の運動会」

ています。漁村と農山村地域、市街地を結ぶよい事業ですし、長く続いてもらいたいですね。
安貴 海の産直力は鼠ヶ関と由良地区の漁業者が協力して運営するようです。「海の産直力」の魚は鮮度がよくておいしいから買うんだって言ってもらえるようになればうれしいです。

これからも 豊かな海・漁村に

本間 これからも漁業者の皆さんにも頑張ってもらいたいのはもちろん、地域の皆さんで活気ある漁村を未来につなげていきたいですね。

英夫 今年も五月に行われた大漁旗フェスティバルでは、大勢の人々に鼠ヶ関へおいでいただきました。鼠ヶ関はイベントの多い所です。イカまつりや岩ガキまつり、そしてトライアスロン大会もあります。そのたびに若い漁業者をはじめ、若者が本当によくやつてくれる。また、鼠ヶ関の町おこしのため、様々な事業を開催している「蓬萊塾」では、今度東京でも物産販売などの催しをする予定です。

本間 地域を挙げて協力することはすばらしいですね。堅苔沢では、「海の運動会」を行っており、今年は十回目でし

安貴 これからもおいしい地域の魚を皆さんに食べてもらいたいと思います。それから、鼠ヶ関の底びき船では今、全船が海水殺菌装置を導入しており、食の安全・衛生面には気をつかっています。また、鮮度を保つため、なるべく陸上で何度も手をかけなくともいいように沖詰めというのも決められていて、魚種によっては沖詰めでなければ受けをしないものもあります。このようなことも消費者の皆さんに知つてもらいたいです。

たが、あいにくの時代で中止になりました。「海の日」にちゃんと何かやろうといつ話が出て、ひいては、地域の活性化にも役立つのではないかと。それと最近は、昔に比べて海での遊び方を十分に知らないという子も多いうです。そういう子供たちにも海のいろいろな楽しみ方を知つてもらいたいという二つの面から始めているんです。真夏に海を相手に競技をするもんだから、目が違うんだよ。生き生きして。そういう姿を見るとよかったです。そういう姿を見るのは漁業の面から伝えたいことがありますか?

大井 我々の仕事は、あくまでも漁師の皆さんのが持続的によい魚を漁獲できるように側面からバツクアップすることですが、鶴岡はすばらしい自然に恵まれていて、海のものも山のものもそろっている。だから鶴岡の豊かさを皆で実感して、漁業文化だけでなく、食文化やそれにまつわる周辺の文化まで大切にしていくべきだなと思っています。

本間 最後にになりますが、漁業者の生活の場であり、漁村の元気の源である鶴岡の海がいつまでもきれいな豊かであるように、また、日本のあるところでもきれいで豊かであるように、ここに参加した我々が絶えませんが、事故のない明るく活気ある豊かな漁村になるように、ここに参加した我々五人が念じながらこの座談会を閉じたいと思います。本日はどうもありがとうございました。